

台湾ドル相場

予想レンジ: **USD/TWD 30.50 ~ 31.70**
TWD/JPY 4.80 ~ 5.05

東アジア資金部台北室 Melody Tung (メロディー・トン)

■ 先月の為替相場

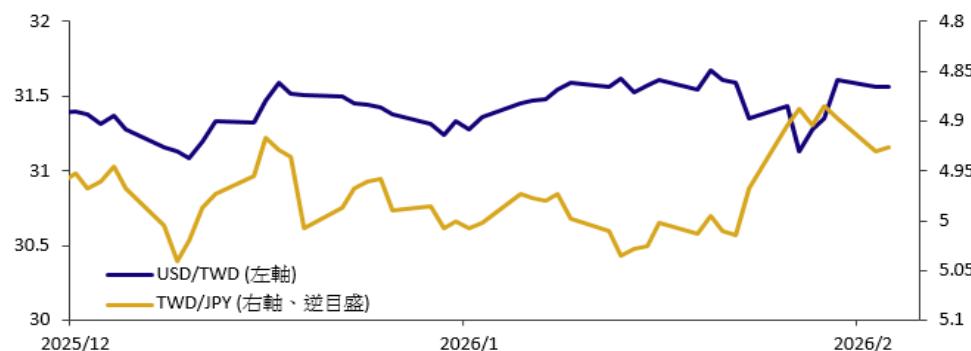
1月のUSD/TWDは31.70まで上昇後、月末にかけてほぼ全戻し。

月初、USD/TWDは31.420でオープン。台湾株の新高値更新により、台湾ドル買いが強まり、1月2日にはUSD/TWDが31.360まで下落。その後も株価は堅調だったが、外資の資金流出と保険会社のドル買いで、USD/TWDは31.50まで上昇。1月8日、台湾の大手テクノロジー企業が現金配当を実施し、外資がドルを送金。9日、米国の雇用統計発表後、市場は米国の第1四半期利下げ予想を下方修正し、アジア通貨が売られ、USD/TWDは31.60まで上昇。

1月中旬、USD/TWDは続伸。1月14日、外資の資金流出とドル高で、USD/TWDは31.700を突破し、31.706(当月高値)まで上昇。1月16日、米台が貿易協定を結び、関税を15%に引き下げ、外資の株式買い越しが拡大し、USD/TWDは31.50台半ばまで下落。

1月下旬、1月22日、特朗普氏が欧州への関税引き上げの脅しを撤回し、市場のリスク回避姿勢が弱まった。1月23日(米国時間)、NY連銀によるレートチェック報道が円買いに拍車をかけ、USD/JPYが大幅下落。1月26日、USD/TWDも31.40台前半まで下落。その後、米金利低下や政府閉鎖懸念が強まり、1月28日USD/TWDは31.292(当月安値)まで下落し、1月末(1月28日)は31.30近辺でクローズ。

■ 為替の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	製造業PMI指数	12月	-	50.9	48.8
1/7	CPI(前年比)	12月	1.30%	1.31%	1.23%
1/9	輸出(前年比)	12月	46.0%	43.4%	56.0%
1/20	輸出受注(前年比)	12月	36.3%	43.8%	39.5%
1/22	失業率	12月		3.35%	3.35%
1/23	鉱工業生産(前年比)	12月		21.57%	16.42%
1/30	GDP	Q4			8.21%

■ 今月の見通し

2月のUSD/TWDは31台前半を中心としたレンジ相場を想定。

1月の外資資金流出は台湾ドル安の主因となったが、1月下旬には資金流出の勢いが弱まり、米金利の低下もあり、USD/TWDは徐々に1月初旬の水準まで戻した。2月のUSD/TWDは1月から続くレンジ相場を維持する見通しで、市場の様子見ムードが強く、31.0~31.5元の範囲での推移が見込まれる。米連邦準備制度(Fed)が利下げ時期を柔軟に対応し、台湾の経済指標にも大きな転換点が見られないため、短期的な為替市場には明確な方向性が乏しい状況となった。

季節要因としては、旧正月前の輸出企業によるドル売り需要が増加し、台湾ドルの反発を促す要因となった。一方で、パウエルFRB議長の任期が5月に満了し、トランプ氏がよりハト派の候補者を指名する可能性があり、金融政策の一層の緩和が見込まれる。こうした人事や政策の転換はUSD/TWDの動向に重要な影響を及ぼし、台湾ドルの上昇圧力を強める要因となった。

総じて、短期的な為替市場には明確な方向感が乏しいが、旧正月の季節要因、台湾の堅調な経済基調、米国の利下げ期待に支えられ、USD/TWDは31元台前半を中心としたレンジ推移が見込まれる。

■ 株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
2/2	製造業PMI指数	1月	-
2/5	CPI(前年比)	1月	-
2/9	輸出(前年比)	1月	-
2/13	GDP Revised	Q4	-
2/25	失業率	1月	-